



特定非営利活動法人

東京学芸大こども未来研究所

Tokyo Gakuai Univ. Children's Institute for the Future

TECH未来通信

2021.SEP
VOL.043



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 ✉info@techmirai.jp

TECH未来を使ってきた先生方(その26)

広島県でのTECH未来

今回は、広島市立清和中学校の長戸正憲(ながと まさのり)先生にお話を伺いました。

長年、TECH未来をご活用くださり、先月行われたTECH未来オンライン交流会にもご参加くださいました!そんな長戸先生にインタビューしてきました。

ー現在、教員何年目ですか？

12年目です。

ーTECH未来を使用して何年目ですか？

7～8年目でしょうか。最初、全日本中学生創造モノづくりフェアにTECH未来のブースがあり、そこで興味を持ちました。翌年4人で1セット準備し、使い始めるようになりました。

ー具体的にTECH未来を使ってどのような授業実践をしていますか？また、生徒の反応はどのようなのですか？

Cエネルギー変換の中で使用しています。例年、付属している資料にある、ギアボックスを作成し、ペットボトルを持ち上げる課題に取り組んでいます。最初250gから始め、500g、1000gと充電式乾電池1本でペットボトルを持ち上がるたびに重さを増やしていきます。最初「簡単だよ」と言っていた生徒も、250gがなかなか持ち上がらないところから、「なぜ?」「どうして?」が始まり、いろいろ試行錯誤して持ち上がった時には、ものすごい達成感を感じているようです。



今後は、電気自動車をモデルに、最適解を考える授業をしていきたいと思います。そして、子供たちの「こういうことができるかな」「どうやったらいいだろう」という『?』を少しでも『!』に変える授業を作りたいと思います。

ー先日ご参加いただいたTECH未来オンライン研修会はいかがでしたか？

「TECH未来でこんなこともできるんだ!」というのが第一印象でした。「活用力コンテスト」の優秀作品の裏話も聞かせていただき、生徒さんの想像力の高さと、工夫がすごいなと思いました。その力を可能にするこの教材の持っている魅力も改めて感じることができました。

ー最後に一言!

「[エネルギー変換]ってどうすればいいんだろう」と悩んでいた時に会ったのがこのTECH未来でした。シンプルなセットだからこそ、生徒は興味をもち、アイデア実現のために試行錯誤していくなかで「自然にコミュニケーションを図るなど、[いい経験]をするのにいい教材だなと思っています。子供たちからいい刺激をもらいながら、自分自身も楽しみながら課題解決に取り組んでいきたいと思っています。」

編集後記

ぜひ活用力コンテストへのご参加もお待ちしております。長戸先生、ありがとうございました!